

令和2年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	70	学校名	県立荃崎高等学校				課程	定時制		学校長名	大久保 一司					
教頭名	山野井 利明			津賀 宗充						事務(室)長名	高橋 悦男					
教職員数	教諭	39	養護教諭	2	常勤講師	4	非常勤講師	10	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	5	計	69
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計		クラス数	
	普通科		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	16			
		44	42	33	31	46	26	9	5	132	104					

2 目指す学校像

社会人として求められる基礎学力及び生活習慣を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据えた職業観、勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 生徒・教職員、共に学び合う学校 | 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 |
| 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 | 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校 |

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎的・基本的な学習内容の理解が不十分な生徒が少なくないが、学び直したいという意欲を持つ生徒が増加している。また、学力の差が大きい。	生徒一人ひとりに目を向け、個々の学習課題を解決し、生徒の学び直しを丁寧に支援する。
進路指導	進路希望が四大・短大・専門学校進学から就職まで多様である。関係職員の努力により、進学や就職などの進路実現を図っている。特別な支援を要する生徒についての中学校からの引継ぎができるようになり、就労支援に繋ぐことができるようになってきている。	キャリア教育を推進し、望ましい進路観・職業観を育て、個別の能力・適性に応じた進路実現を目指す。個人の力に頼ってきた就労支援をシステムとして整える。
生徒指導	基本的な生活習慣が身に付いていない、規範意識に欠ける等の生徒は徐々に減りつつある。一方で、人間関係を築くのが得意でない生徒が増えている。	組織的な生徒指導体制を充実させ、規範意識の高揚を図る。キャンパスエイドや各種支援事業の効果的な運用により豊かな人間関係づくりを支援する。
特別活動	HR活動・生徒会活動・部活動等への参加意欲は全体的には高くないが、自主的に活動する生徒の数が増加している。	学校行事や生徒会活において、自主的に活動する場面を増やし自己肯定感を醸成する。
働き方改革	部活動での従事時間は少ないが、生徒や保護者対応・行事の準備などで超過勤務が増えてしまっている。	月当たり45時間を超える超過勤務の解消を目指し、校務の精選や業務の割振りの見直しを行う。

別紙様式1 (高)

4 中期的目標

1	個々の能力に応じた効果的な学習指導の実践
2	学びの場としての環境づくりと豊かな心の育成
3	進路指導の充実
4	特別活動の充実と活性化
5	開かれた学校づくりの推進

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基礎学力の向上を図る	ア 授業を積極的に公開して学習指導の工夫・改善を図り、生徒が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 イ 少人数授業，TT授業，ファーストステップ授業などの個の能力に応じた学習指導を実践し，ICTを必要に応じて活用しながら，生徒の学びの質を向上させる。
2 学びの場としての環境作りに取り組む	ア 必要に応じてICTが活用できる教室環境を整える。 イ スクールカウンセラーやキャンパスエイドの支援を得て，教育相談機能を充実させ，望ましい人間関係を構築しながら，安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 特別な支援を必要とするひとりひとりの教育的ニーズに応えられる体制づくりを行う。 エ 図書館の整備に努め，生徒の読書や学習に自主的に取り組むことができる環境を整える。
3 基本的な生活習慣の確立を図る	ア 登下校指導や日常の声かけをとおして，服装・頭髪等の身だしなみを正し，挨拶の励行に努める。 イ 遅刻・早退・欠席を少なくし，欠課時数の増加や生徒指導上の問題行動による退学者数を減らす。
4 生命や人権を大切にす態度を育成する	ア お互いを思いやり，尊重する態度を育成し，生徒相互の豊かな人間関係を築く。 イ いじめは，「人間として絶対に許されない」という意識を持たせる。
5 進路指導の充実を図る	ア ロングホームルームや進路ガイダンスを充実させ，進路別見学会を実施し，進路情報の収集と提供により，進路意識の向上を図る。 イ 綿密な面談により，生徒や保護者の進路希望を把握し，進路指導の充実を図る。
6 特別活動の充実と活性化を図る	ア 生徒の自主性を育みながら，生徒会活動を活性化し，部活動の充実を図る。 イ HR活動を中心に，学びを振り返るとともに，将来への見通しを持たせる。
7 フレックススクールとしての特徴を生かした教育活動の向上・推進を行う	ア HPや印刷物等により，フレックススクールの教育活動内容を積極的に発信する。 イ 中学校訪問や学校説明会等広報の拡大を図り，保護者や地域社会との連携を推進する。
8 教職員の資質能力の向上を図る	ア 校内研修を充実させるとともに，校外の研修に積極的に参加し，教職員としてのスキルアップを図る。